岡田宮

—（宝永4年）1707年　**貝原益軒書**　—

第32号
平成13年11月吉日
発行　**岡田宮社務所**
北九州市八幡西区岡田町1番1号
郵便番号　806-0033
電話 (093) 621-1898
FAX (093) 621-5330

年を祝う

「とし」と「いのち」
今も私たちの中に生きている　時間の感覚

「今年幾つになるのかな?」多忙な毎日に追われていると、いつしか親の年齢が、子どもの年齢がすぐに思い浮かばないことってよくあります。

普段の生活ではあまり意識することのない「年」ですが、お正月にお年玉をもらったり、節分には年の数だけ豆を食べたり、一定の年齢に達すると神社にお参りに行き家族そろってお祝いをする…、そんな習慣が今日に伝えられていることを考えると、日本人がずいぶんと「年」にこだわって生きてきたことがわかります。

単なる時間の積み重ねではない何かを「年」に抱き続けて生きてきた、そんな日本人の「年」に対する思い入れを、こんな時代だからこそ考えてみたいと思います。

◎年に込められた願い

私たちの祖先は、お正月を迎えることで年を一つずつとるという考え方を「数え年」として生活の中に取り入れてきました。つまり数え年とは生まれた年を一才とし、正月を迎えるたびに一つ年をとるという数え方で、今日でも年配の方に年齢を尋ねると、数えで何歳という答え方をしばしば耳にします。

これは、稲作を中心とした生活習慣から生まれてきました。春に蒔いたもみが苗となり、初夏の田植えを経て、秋には黄金色の稲穂を実らせます。そして冬の間に新しい生命を育みながらやがて訪れる春を待ちます。私たちの祖先は、この流れを生活の基本的なリズムや精神の模範におき、やがて「年（とし）」と呼ぶようになりました。

その中でもお正月は、稲に宿る新しい力を自分たちの中に分けていただく期間として、特に大切にされてきました。新しい年を迎えることで、人もまた稲のように新しい生命を育んでゆこうとする願いが「年」には込められています。

◎お年玉

「初詣」「お雑煮」「お年玉」など、一年の始りのお正月には日本人が古来大切にしてきた「年」の観念を見ることができます。

たとえば、お年玉に注目してみると、今日ではお金を包むことが多くなりましたが、もともとは丸いお餅を大人も子どももいただくものでした。このお餅をいただくことでお正月にお迎えする年神さまの魂を分けてもらい、年を一つ取ることができると考えたのです。

また、このお餅を牛や馬などの家畜、鍬や鋤などの道具にも与える地方もあります。

これは、人だけでなくこの世のすべてのものがお正月を一緒に迎え、年を取ると考えられてきたからです。

◎人生の節目と日本人

日本人は、人生の節目節目にそれまでに積み重ねてきた年を振り返り、生命の尊さを考えてきました。

私たちは毎日、家族をはじめ多くの人たちや、自分の周りのさまざまな見えない力に支えられて生きています。日本人は、この生命を支えてくれる見えない力の働きを「神さまのおかげ」と呼び、神さまに感謝する心を培ってきました。

それは一日の神棚への祈りからはじまり、お正月の初詣、それぞれの年の節目のお祝いへとつながっています。七五三や成人式などのお祝いも、さまざまな支えによって生かされて今日に至っている自分の存在と、生命とのつながりを確認する機会なのです。日本人は、年のお祝いを重ねるたびに与えられた生命を充実させ、神さまとともに平和で喜びに満ちた生活を営んでゆけるよう、祈ってきたのです。

第7回　岡田神社書道展

●会期
平成13年7月22日(日)
～7月29日(日)

●表彰式
平成13年7月29日(日)
於 岡田宮本殿

●総出品点数
七二八点

岡田宮賞
小2　水松　実紗
小3　河原　悠希
小4　今西　陽香
小5　櫻井　嗣也
小6　川内　宏美
中1　中山　史蘭
中2　櫻井　聖子
中2　林　康史

総代会長賞
小2　茂司　卓治
小3　中山　愛夢
小4　櫻井　加織
小4　山中　利樺
小5　山鹿　千紘
小6　遠藤　怜子
中1　遠藤　聡子
中3　上口あゆみ

特選
小1　石田　ゆり
小1　西口　映美
小2　髙橋　一希
小2　吉田さやか
小2　芦刈恵莉菜
小2　平岩　愛美
　　森山　涼太
小3　山鹿　育恵
　　南　有紀
　　原田　夏光
　　村上　夏希
　　吉牟田有宇子
小3　鶴山　奈々
　　石田　敬子
　　瀬戸裕里恵
小4　髙橋　早紀
　　黄檗あゆみ
　　間野　聡実
　　芳賀　智大
　　安藤　早紀
　　原口　沙希
　　鶴山　大雄
　　石田　貴裕
　　緒方　千夏
　　時松　光
小4　池田美和子
　　本田　裕
小4　下司　佳奈
　　大曲　秋絵
小5　桑原志帆乃
　　市原沙也佳
　　貞刈　由佳
　　花田　亜希
　　原田　真吾
　　穴村　佳子
　　山内　真紀
　　大曲　咲希
　　井手　宏美
小6　越智　恵理
　　田中　成美
　　髙﨑百合絵
　　上野　里実
　　仁科　慧美
　　輪竹絵梨奈
　　三浦　綾美
　　中谷友梨恵
　　近藤　彩紀
　　池田　香織
　　田口　千智

小6　黒田沙央里
　　久住　拓矢
中1　梶原　遼子
　　田中沙耶香
　　松本麻莉子
　　七田　美穂
　　明田　山紀
　　魚住　美穂
　　内倉希美子
　　本田　彩
　　空閑　温子
　　坂口　賢輔
　　藤原　かよ
中2　野口　久恵
　　谷　美渚子
　　神原　梨香
　　香月　佑子
　　三木絵里奈
中3　原田　友絵
　　古川真山美
　　佐々木綾那
　　宇野　汐梨
　　髙橋　慶子
　　栃原　綾子
　　松本小野花
　　神菊　真弓

光景ひらく

登れば
のぼっただけは高くなる
高くなれば
それだけ眼界がひろくなる
高いところには
平地に見られぬ花がさく
高いところには
塵埃がない
たかいところの叫びは
遠くへひびく

郷土地名考 ㉜

両国橋（りょうごくばし）

八幡東区の両国橋は、西鉄電停三条と大蔵の間、板櫃川にかかっている。

この川が豊前小倉と筑前黒田領の国境であった。むかしの国道でシーボルトの江戸参府紀行にも、ここらあたりで小倉藩の武士の出迎えをうけ「境界線は街道の西側に立っているふたつの石で示されている」と記している。両国にまたがるから両国橋だ。

戸畑の両国橋は一枝バス停のそばで、小倉北区到津・金比羅池から流れている境川にかかっている。これまた豊前と筑前の国境であるから両国橋なのである。小倉側に両国市場。

さてふたつの川が国境になったが曖昧なのは水源、金毘羅池一帯の国境、藩政時代豊筑両藩の間で確執があり、ほぼ今の区界にきまったそうだ。

神社なぜなぜ問答（その32）

Q　安産祈願やお食ひ初めなど、出産と育児に関する行事について教えて下さい。

A　妊娠や子どもの誕生、成長の過程で、子供が無事に生まれ、丈夫に育つことを願うさまざまな産育に関わる行事がおこなわれています。

　妊娠五カ月目（地域によって日数に相違）の戌の日には、帯祝いと称して、妊婦の腹に木綿の布で作られた腹帯（岩田帯）を巻きます。これを戌の日におこなうのは、犬の多産ということにあやかるためや、この世と来世を往復する動物と考えられていること、また、よく吠えて家を守るため邪気を祓う意味があるといわれています。また、腹帯には胎児を保護する意味がある他、胎児の霊魂を安定させるなど信仰的な意味もあるといはれ、神社で安産祈願を受けたものを用いることが多いようです。

　妊娠中には日常と比べて多くの禁忌があります。葬式に参列してはならないことや、火事を見てはならないこと、この他、食べ物については限りがないほどの制約が設けられており、これらの禁忌は妊娠・出産という緊張状態にある妊婦と胎児の体を気遣ってのことであると考えられます。

　さて、出産の後も新生児に対するさまざまな行事がおこなわれています。生後三日目（地域によって日数に相違）に産湯を浴びさせますが、この湯に塩や酒を入れると風邪をひかないといわれております。これは子供の身体を清めるとともに、発育を願う意味もあるようです。また、七日目のお七夜には、子供の命名をして親類や隣近所の方などを招いてお祝いの席が設けられます。

　この際に名前を書いた紙を神棚や床の間に貼り、家の神様に家族の一員としてお守りを戴くよう奉告をします。

　生後三十日前後に、氏神様をお参りすることを初宮参りといい、神様のお力によりこの世に生を享けたことに感謝するとともに、氏子の一員として氏神様に承認戴く行事です。

　また、百日前後にお食い初めといい、祝いの食事を食べさせる行事がありますが、これも一生食べ物に不自由なく過ごせるようにという願いがこめられたものと考えられています。

　これらの行事は、単に誕生や成長を祝うのみならず、家族や社会の一員としての承認を得るということからも重要な意味を持った通過儀礼ということができます。

平成十四年の厄年

厄年（男）

二十四才	前厄	昭和五十四年生
二十五才	**大厄**	**五十三年生**
二十六才	後厄	五十二年生
四十一才	前厄	三十七年生
四十二才	**大厄**	**三十六年生**
四十三才	後厄	三十五年生
六十才	前厄	十八年生
六十一才	**大厄**	**十七年生**
六十二才	後厄	十六年生

厄年（女）

十八才	前厄	昭和六十年生
十九才	**大厄**	**五十九年生**
二十才	後厄	五十八年生
三十二才	前厄	四十六年生
三十三才	**大厄**	**四十五年生**
三十四才	後厄	四十四年生
三十六才	前厄	四十二年生
三十七才	**大厄**	**四十一年生**
三十八才	後厄	四十年生

◆厄年大祭　二月節分日

年末年始の行事案内

●大祓式　十二月三十一日

大祓とは、半年間の罪穢を祓い、清々しい心となって各自の勤めに励み一家の幸福を増進せんとする意義深い行事です。

形式に住所、氏名、年令を書き身体をなで息を三度吹き掛け初穂料（お思召し）と共に袋に納めて十二月三十一日までに町内の神社総代か岡田宮社務所迄お届け下さい。

形代（表）
かたしろ

●歳旦祭　一月一日

新しい年をお祝いし、今年も良い年であるようにとお願いする神事。

午前０時より、恒例の「福餅」を先着順で五百個配ります。

●開運福引き　一月一日〜三日

一枚五百円でハズレなし。

一等はカラーＴＶ、羽毛ぶとんなどが当たります。新年の運だめしにどうぞ。

昨年の一等（敬称略）

八幡西区茶売　早田　信男
長崎県長崎市　宮田　文嗣
八幡西区上香月　匿　名
小倉北区妙見町　磐梨　文孝

●特別祈願祭　一月一日〜七日

新しい年を迎え、家内安全、職場安全、商売繁盛、厄除開運等の特別祈願を受け付けております。

皆様おそろいでお参り下さい。

●成人奉告祭　一月十四日（成人の日）

新成人のお祓いをします。

●どんど焼祭　一月十四日（祝）（成人の日）

古くなった〆縄、門松等を焼納する神事。

地元有志による餅つき、餅まき、黒崎祇園太鼓、神酒接待、ぜんざい等の諸行事が午前中に奉納されます。

平成十四年　算賀の年祝

日本国には古い時代から人の寿命を加へゆく年の区切り区切りを慶び祝う風習があります。

この祝いを年賀とも算賀ともいいます。

どうぞご家族そろって岡田宮にご参拝され、今までの無事息災を神様に感謝すると共に更に向後の長寿安泰をお祈り下さい。

※日取は誕生日又は早めにされて下さい。

還暦	六十一才	昭和十七年生
古希	七十才	昭和　八年生
喜寿	七十七才	大正十五年生
傘寿	八十才	大正十二年生
米寿	八十八才	大正　四年生
卒寿	九十才	大正　二年生
白寿	九十九才	明治三十七年生

楽しい雰囲気・明るいスタジオ
(株) 有川写真館
岡田宮内にスタジオ完備
宮参り、七五三など
撮影時、衣装無料でお貸ししてます
フリーダイヤル　0120-62-2080

写真館
PePe
北九州プリンスホテル　ペペ２Ｆ
インドアプール前にオープン
各種衣装取り揃えております。
フリーダイヤル　0120-620-753